

再編整備候補案策定にあたって

1 基本的な考え方

総数決定基準に基づく通学区ごとの学校数

- ・ 1 学年の平均学級数を 5.5 学級とし公立 7 6 校が目安
- ・ 平成 31 年度までの生徒数の推移から、上記基準に基づき通学区ごとの校数を設定

第 4 通学区 2 0 校 1 7 校

地勢や地理的条件に配慮

- ・ 学校の立地環境、近接校との距離、通学の利便性等に配慮

下限規模としての 1 学年 2 学級

- ・ 充実した教育の保障という観点からの下限規模 1 学年 2 学級

総合学科高校、多部制・単位制高校の配置

- ・ 通学圏域が広範囲となるよう配慮
- ・ 多部制・単位制高校の配置にあたっては、定時制課程の配置に配慮
- ・ 定時制の再編整備にあたっては、勤労青少年の通学や居場所としての学校へ通学することが困難とならないよう配慮

2 推定募集学級数の算出方法

	14年度	15年度	16年度	17年度		18年度	19年度	20年度	...	31年度
第10区	442	402	413	394		369	346	373	...	234
	11	10	10	10	平均	9	9	9	...	6
	0.995	0.995	0.969	1.015	0.994					
第11区	4447	4329	4274	4114		4158	4099	4148	...	3934
	75	74	73	70		71	70	71	...	67
	0.675	0.684	0.683	0.681	0.681					
第12区	709	640	714	668		638	683	641	...	516
	13	12	13	12		12	13	12	...	9
	0.733	0.750	0.728	0.719	0.733					

$$11 \times 40 \text{人} = 440 \text{人} \quad 440 \div 442 = 0.995 \quad (0.995 + 0.995 + 0.969 + 1.015) \div 4 = 0.994$$

$$369 \times 0.994 \div 40 = 9.17$$

募集定員の設定要素

- ・ 中学卒業生数の動向
- ・ 全日制への進学率
 - 高等専門学校への入学者、県外への進学者、各種・専修学校への進学者、定時制・通信制への進学者、自律学校高等部への進学者、就職者、家居・その他を考慮して算出
- ・ 公立・私立の比率
- ・ 区間流入の状況
- ・ 県外からの流入

3 第 4 通学区平均学級数

	現状のままの校数の場合		再編候補案の場合
	平成 1 6 年度	平成 3 1 年度	平成 3 1 年度
第 1 0 区	3.3 3 学級 (3 校)	2.0 0 学級	3.0 0 学級 (2 校)
第 1 1 区	5.6 2 学級 (1 3 校)	5.1 5 学級	5.5 8 学級 (1 2 校)
第 1 2 区	3.2 5 学級 (4 校)	2.2 5 学級	3.0 0 学級 (3 校)